

コットン栽培農家さんをご紹介します 第9回 小島悦子さん

小島さんの自宅はいわき市の北部、久之浜町大久字小久にあります。町の中心地から3キロほど山合に入った里山の風情を残す自然豊かな地区です。自宅入口には「ハイジの里山」と書かれた手作りの看板が立っています。小島さんは8年前まで埼玉県大宮市でお花の教室やフラワーアレンジメントの仕事をしていました。ご主人の定年退職を機に田舎暮らしを夢み、数年間色々な所を歩き永住の地を探し求めたそうです。遂に出会った現在の土地を一目で気に入り、自宅の裏に広がる山林を含め4000坪を購入。竹藪と岩盤が多く最初は開墾の様だったと言います。土を入れ替えて整備した所に自宅を建てました。「主人が全部やってくれるんです。尊敬しています」と静かに語る小島さん。

「ハイジの里山」と命名した由来をお聞きしてみました。子供の頃、外で遊ぶことが出来ない程病弱でベッドから起き出せない辛い日々の中、唯一の慰めは小説「アルプスの少女ハイジ」を読むことでした。元気に明るく走るハイジに自分の将来を重ねたといいます。いま休日ともなると小島さん宅には、美しい自然を求め家族連れや友人が大宮市から遊びに来られ、年間を通しコットン畑の手伝いをしてくれています。

オーガニックコットン栽培に関わるキッカケとなったのは市の広報紙でした。いわき市内で取組がスタートしていることを知り胸躍るものがあったと言います。好奇心もありオーガニックコットンについて早速自分なりに勉強を始めていました。

ところで、海岸に面する久之浜地区は東日本大震災の津波被害で多くの犠牲者が出ました。震災後友人を通し慰霊祭の献花についての協力依頼があり「自分に出来ることなら」と引受けたとの事。被災地となった場所には献花台が設けられ



3.11供養祭が毎年開催される様になりました。供養祭が近づくたびに全国から小島さんの元にはお花が箱で送られて来ます。アレンジメントしながら「お手伝いをさせてもらっています」と遠慮がちに話す小島さん。前向きに取り組む姿には、純粋な少女ハイジを彷彿とさせるものがありました。

イエローキャンペーンでの贈呈 ありがとうございます！

4月16日、イオンいわき店において恒例の「幸せの黄色いレシートキャンペーン」の贈呈式が行われました。毎月11日に実施されるキャンペーンには市内の学校やボランティア団体など11団体が参加しています。売上総額の1%にあたる71万8700円がイオンギフトカードでの贈呈となり、今回本会では68,700円のご寄付を頂きました。

キャンペーン実施日は自分達の活動を知って頂けるチャンスと捉え、レジを終えたお客様にレシート投函を呼びかけ、毎回各団体のスタッフが張り切って取り組んでいます。

贈呈式終了後、店長さんを中心に懇談会が持たれました。席上キャンペーンの実績がいわき店は東北二位とお話がありました。これら寄付金は自分たちにとって有効な活動費となるだけに出席者一同「もう一歩頑張って東北一位を目指そう」と決意を新たにしました次第です。



「いわき市いきいきシニアボランティア事業」 の指定を受けました

いわき市では、高齢者の社会参加と地域貢献を奨励・支援することで、介護予防推進につなげることを目的に「いきいきシニアボランティアポイント制度」を導入しました。

これは、高齢者（但し市内に住む65歳以上の方に限ります）が市の指定する地域福祉活動やボランティア活動に参加することによってポイントが付与され、当該ポイントを素敵な商品と交換できるという事業です。

本会はこの度、受入機関としての指定を受けました。ザ・ピープルは年間を通し古着の仕分作業やオーガニックコットン栽培に伴う作業があります。市内の高齢者がボランティアとして関わっていただけることは、「住民主体のまちづくり」を進めることを活動の目的としているピープルにとって願ってもない事業です。

今後地域の中で高齢者をボランティアとして受入れ、この事業を進めて参りたいと思います。沢山のご参加をお待ちしております。詳細は事務局までお問い合わせください。

県コミュニティ交流事業を終えて

28年度の福島県補助事業として「永崎団地における住民とのふれあい交流架け橋事業」を10月から5回に渡って開催してきました。双葉郡の原発避難者といわき市の津波被害者双方のコミュニティーづくりが目的でした。向かい合って建つ公営住宅は約400世帯が暮らす大きな団地です。イベントは双方の集会所を使って開催しました。ボランティアで入って下さった団体は殆どが震災後、毎年何らかの形で被災地を訪れ応援して下さいました。



第1回目の9月22日は東京でフラメンコ教室を主宰している公家千彰さん。団員8名を伴ってのフラメンコを披露。終了後スペイン料理を振る舞って下さいました。



第2回目の10月11日は中平マリコさんのライブ。この時は日系ブラジル人24人も同行されブラジル健康体操を披露して下さいました。

第3回目は12月4日埼玉県の「チーム農援隊」会員10名がおそばの提供で来て下さいました。リーダーの平林知人さんは、毎年インドを訪れ、おそばの研究をされるほどの熱血漢です。そば作りのデモンストレーションを披露。「こんな旨いそば初めてだ!」との声も聞かれ大好評でした。



第4回目はいわきマジシャンズクラブ会長のダンディ鈴木さんによるマジックショー。次々展開するマジックに一回毎に歓声と拍手が上がっていました。



第5回目は、民謡歌手の小山なつみさんの民謡ショー。息子さんの三味線に合わせ、なつみさんが相馬盆歌などを歌うと、会場の皆さんが踊り出す等大いに盛り上がりました。



交流会は回を重ねる度に参加者が増え、会食の準備も積極的に取り組んで下さり賑やかな会話が弾む情景が見られ、新たなコミュニティ交流が生まれていると実感しました。

古着回収量増大に伴う応援団募集!!

毎年1月～2月にかけては古着回収量が減少し「いつもこの時期は仕方ないよね」と言うのがスタッフ一同の声でしたが、最近は宅配便で送られてくる古着の量が増大し、ボランティアスタッフによる仕分け作業だけでは追いつかない状況になっています。

最近の傾向として制服の切り換えや、長期間倉庫に眠っていた未使用のジャージ類があり、処分したいと言った企業からの問い合わせが多くなってきています。本会ではこうした衣類はエコウールリサイクルとして車の内装材に活用しています。量は毎月12トンに上っています。本会では個人・企業からの問い合わせに対し活用方法について丁寧に説明をするようにしています。「無駄なく活用できるというのは凄いことですね。早速送りますよ」と納得のうえ皆さん提供して下さいます。

ところでピラミッドの様に積み上がった古着の山を仕分けする作業の外、トンバックと呼ぶ麻袋に200キロの古着を詰め込むための作業があります。今これら作業に協力して下さるボランティアを募集しております。

因みに昨年は新入社員研修やボランティア活動体験ということで2つの企業から応援を頂き大いに助かり感謝でした。全国の皆様応援して下さい。連絡お待ちしております。

定期総会の開催のお知らせ

- 日 時 平成29年6月22日(木) 午前11時～
- 会 場 ザ・ピープル事務局(タウンモール リスポ内)

私たちの活動を会員として支えて下さい。会費納入をよろしくお願い致します。
会費：活動会費(実際に活動に参加される方と、会報の講読という形で支援して下さる方)……………2,000円/年
賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員)10,000円/年
郵便振替(02110-0-24908)でお送りください。